

学会集報

○平成二十七年中国文化学会大会

平成二十七年六月二十七日(土) 於文教大学

〔研究発表〕

一、フランソワ・ノエル『中国哲学三論』における靈魂觀

に関する一考察 筑波大学大学院 竹中 淳 氏

一、陶淵明「擬古」詩小考

筑波大学大学院 宇賀神秀一 氏

一、劉禹錫の「秋詞二首」への新視角

筑波大学大学院 荒川 悠 氏

一、白居易「傲陶潜体」詩について

明治大学大学院 七戸 音哉 氏

一、市立米沢図書館蔵「増刊校正王狀元集注分類東坡先生

詩」残巻考 筑波大学大学院 王 連旺 氏

一、李商隱の文学と仏教 文教大学 加固理一郎 氏

一、中国の語り物とは何か？

元山形大学 高橋 稔 氏

一、『全経大意』を読む

東京外国語大学名誉教授 高橋 均 氏

〔シンポジウム〕

「日本、中国の近世、近代における漢字、漢字文化の交流について」

コーディネーター・司会 文教大学 阿川 修三 氏

パネリスト 筑波大学 小松 建男 氏

二松学舎大学 佐藤 一樹 氏

文教大学 蔣 垂東 氏

文教大学 阿川 修三 氏

〔総会〕

一、開会の辞

加藤敏副会長

二、議長選出

高橋均会員を議長に選出

三、会長挨拶

安藤信廣会長

四、諸報告

(1) 総務委員会

加藤 敏委員

(2) 企画委員会

加藤 敏委員

(3) 編集委員会

阿川修三委員

(4) 会計委員会

井川義次委員

(5) ホームページ小委員会

菅野智明委員

五、議事

(1) 平成二十六年年度決算

井川義次委員

(2) 平成二十七年予算

井川義次委員

- 六、会長選挙
- 七、理事選挙
- 八、閉会の辞

和久 希会員
和久 希会員
加藤敏副会長

○例会

平成二十七年五月九日（土） 於大妻女子大学

- 一、王漁洋の「悼亡詩十二首」について

宇都宮大学非常勤講師 荒井 禮 氏

- 一、庚信から趙王へ——「周趙王集」の全体像と価値——

東京女子大学 安藤 信廣 氏

〈古典籍展示（高橋均会員蔵）〉

近代学者の筆跡

- ① 羅常培から大矢透への献呈辞（莫友芝著『韵学源流』）
- ② 馬宗霍『音学通論』原稿及び刊本
- ③ 伝・王力『音韻学』原稿
- ④ 周祖謨、張志公など

平成二十七年十二月五日（土） 於大妻女子大学

- 一、陳子昂「感遇」詩試論——「黃雀」「中山」の寓意性

茨城工業高等専門学校 加藤 文彬 氏

- 一、嵇康の「家誠」と「釈私論」と——「中人」の志をめぐ

つて—— 青山学院大学名誉教授 大上 正美 氏

平成二十八年三月十二日（土） 於大妻女子大学

- 一、銭大昕の『三國志』考証について

北海道教育大学大学院 高橋 和 氏

- 一、元結の銘について

千葉大学 加藤 敏 氏

〈古典籍展示（高橋均会員蔵）〉
図解資料（2）

- ① 陸氏草木疏図解（一冊 淵在寛 安永八年〔一七七九〕

須原屋茂兵衛刊）

- ② 五経圖彙（三卷 松本愚山 寛政三年〔一七九一〕刊

京師北村四郎兵衛）

- ③ 七言唐詩画譜（一冊 集雅齋蔵板 錢塘・林之盛叙

刊年・刊行者不明）

○平成二十七・二十八年度役員

会 長 加藤敏

副会長 白井啓介、小松建男

理 事

相原茂、安藤信廣、薄井俊二、大上正美、大橋賢一、

加藤章、後藤秋正、櫻田芳樹、高橋明郎、高橋由利子、

谷口匡、谷口真由実、細谷美代子、堀池信夫、

三上英司、向嶋成美、村田和弘、山中恒己、鷺野正明、
渡辺雅之、渡邊義浩

理事・委員（兼任）

総務委員 樋口泰裕（常務理事）、尾川明穂、菅野智明、
北島大悟、高橋佑太

企画委員 増野弘幸（常務理事）、阿川修三、加固理一郎、
玉城要、松村茂樹

編集委員 坂口三樹（常務理事）、内山直樹、大村和人、
河内利治、木村淳、佐藤一樹、蔣垂東、

寺門日出男

会計委員 渡邊大（常務理事）、井川義次（常務理事）

会計監査 舟部淑子、山田忠司

幹事 宇賀神秀一、王連旺、小田健太

※住所・勤務先等に変更のあった方は、事務局宛御一報下さい。

中国文化学会 zhongguowenhua_xuehui@yahoo.co.jp

（〒三〇五―八五七一 茨城県つくば市天王台一―一）

筑波大学 人文社会科学研究科 文芸・言語専攻内）

中国文化学会会則

第一条（名称） 本会は中国文化学会と称する。

第二条（目的） 本会は中国文化及び漢文学の研究とそれに基づく教育への寄与をもつて目的とする。

第三条（事業） 本会は以下の諸事業を行う。

- ア 大会 年一回。
 - イ 例会 年数回。
 - ウ 会報『中国文化』の発行。
 - エ 会員名簿の発行。
- オ その他、本会の目的を達成するために必要と認められた事業。

第四条（会員） 本会は、本会の趣旨に賛同する個人、法人、団体の会員によつて構成される。

2 本会に入会を希望するものは、会員一名の推薦により理事会の承認を経て会員となることができる。

3 会員は第三条にいう諸事業に参加し、刊行物の頒布を受けることができる。

4 会員は本会則に定める会費を納めなければならない。

第五条（役員） 本会に以下の役員を置く。

- ア 会長 一名。会長は総会において会員の互選により選出される。会長は会を代表し、会務を統べる。
- イ 副会長 本会に副会長一名または二名を置くことができる。副会長は理事会の議を経て会長が委嘱する。副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。

ウ 理事 十五名。理事は総会において会員の互選により選出する。会長は理事会が必要と認めた場合、総会で選出された理事以外に理事若干名を委嘱することができる。

エ 常務理事 若干名。常務理事は理事の中から互選により選出する。

- 2 役員の任期は二年とし、再任を妨げない。
- 3 役員は満七十五歳を超えて在任できない。ただし、任期の途中で満七十五歳に達した役員は、当該任期未まで在任す

るものとする。

第六条（総会） 総会は本会の最高意思決定機関で、会長が招集し、毎年一回開催される。

第七条（理事会） 理事会は会長が招集し、会の重要事項を審議する（常務理事会） 本会の日常会務を執行するために常務理事会を置く。常務理事会は会長、副会長、常務理事をもつて構成する。

第九条（委員会） 常務理事は以下の委員会に属し、会務を分担する。

- ア 総務委員会
- イ 企画委員会
- ウ 編集委員会
- エ 会計委員会

第十条（会計監査委員会） 会計監査委員は毎年一回本会の経理全般を監査し、その結果を総会に報告する。会計監査委員は理事以外の会員の中から会長が委嘱する。

第十一条（選挙管理委員） 選挙管理委員は二年ごとに行われる会長と理事の改選を実施し、その事務を取り扱う。

第十二条（会計） 本会の諸事業に要する経費は会員の納入する年会費及び寄付金などで賄われる。

- 2 年会費四、〇〇〇円とする。
- 3 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり、翌年三月三十一日をもって終わる。

第十三条（改定） 本会則の改定は、理事会の決議により、総会出席者の過半数の同意を得て行う。

〔付則〕 1 本会則は一九九七年（平成九年）六月二十八日から大塚漢文学会会則に代つて発効する。

二〇〇一年（平成十三年）六月二十三日改正。

2 本会の事務所を当分の間筑波大学人文社会科学研究所

文芸・言語専攻内に置く。

〔了解〕（理事の選出、委嘱、常務理事の互選に関して）

理事会は可能な限り全国各地区から選出の理事を含めて構成し、常務理事会は実務担当に便宜な地域に居住する理事で構成する。

「中国文化」投稿規定

〈応募資格など〉

- 1 中国文化学会会員に限る。
- 2 応募原稿は、未公開のものに限る。ただし、口頭で発表しこれを初めて論文にまとめたものは受理する。

〈原稿枚数など〉

- 3 原稿は校正時に加筆を要しない完全原稿とする。
- 4 原稿枚数は、本文・注（原稿用紙1マスに1字を収める。）・図版などをあわせて、下記の枚数を厳守する。
 - (1)論文 文：400字詰め35枚以内。（ワープロ使用の場合、縦書きは26字×21行で26枚以内とし、横書きは35字×33行で12枚以内とする。）
 - (2)研究ノート：400字詰め20枚以内。（ワープロ使用の場合、縦書きは26字×21行で15枚以内とし、横書きは35字×33行で7枚以内とする。）
- 5 図版を必要とする場合、占有面積半ページ分を550字として換算する。図版原稿はそのまま版下として使用できる鮮明なものとし、掲載希望の縦・横の寸法を明示する。表についても、掲載希望の縦・横の寸法を明示する。

〈体裁・表記など〉

- 6 原稿は縦書き・横書きのいずれでもよい。
- 7 原稿は常用漢字を原則とする。正漢字・簡体字などを用いる場合は下記に注意する。
 - (1) 引用文など必要箇所を正漢字で表記する場合は、原稿提出時において表記が完成されていること。（正漢字箇所を必ずマーカーなどでマークすること。）
 - (2) 引用文など必要箇所を簡体字で表記する場合も(1)に同じ。
 - (3) とくにワープロ原稿の場合、上記の点に留意すること。引用部分が手書きになっても差し支えない。
- 8 中国語のローマ字表記は、漢語拼音方案による。但し、特殊な綴りで通用している固有名詞や、本人が自分の名前に使用している綴りについては、その使用も認める。また、日本語のローマ字表記は、ヘボン式の使用を原則とする。

〈原稿提出〉

- 9
 - (1) 締切日：2月末日（厳守すること）
 - (2) 提出先：別途定める編集事務局宛
 - (3) 原稿は必ず書留により上記に郵送するものとし、2月末日までの消印のあるものを有効とする。
 - (4) 応募時に、原稿以外に複写コピー2部を用意し、合わせて計3部を提出する。（事故に備え、提出前にあらかじめ自家用のコピーを必ず作成しておくこと。）

〈審査〉

- 10 採否については、編集委員会が委嘱した査読委員の報告を受けて、編集委員会で決定し、4月上旬までに連絡する。

〈抜刷ほか〉

- 11 論文掲載者には、掲載誌3部および抜刷30部を贈呈する。